

2014年3月8日 札幌市  
第48回 糖尿病学の進歩  
シンポジウム 糖尿病の基礎・臨床における  
女性医師のキャリア形成

# 女性医師を取り巻く現状 ～糖尿病学会パブリックコメント～

日本糖尿病学会 女性糖尿病医をpromoteする委員会

旭川医科大学 内科学講座 病態代謝内科学分野  
安孫子亜津子

# パブリックコメント

- 「糖尿病学会員からの女性医師に関する要望について」
- 2013年1月16日～1月31日で募集
- 募集対象 日本糖尿病学会学会員のうち  
My Page登録の 学術評議員  
名誉会員・功労評議員  
糖尿病専門医

# パブリックコメント

- 96名よりコメント投稿
  - 名誉会員 2名
  - 功労学術評議員 1名
  - 学術評議員 8名
  - 専門医 85名
  
- 男性 40名
- 女性 56名

# 主なパブリックコメント内容

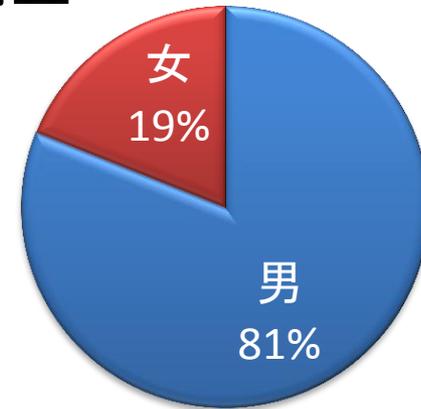
- 勤務体制や院内の制度の改革を求めるもの
- 院内の託児所などの設置、充実を求めるもの
- 専門医制度の改革を求めるもの
- 社会として子育て支援に関する意識改革を求めるもの
- 学術集会におけるサービスや開催場所に関する改革を求めるもの

# 日本の医師数、糖尿病学会員数の現状

2010年12月末 医師歯科医師薬剤師調査

○病院または診療所の医師数

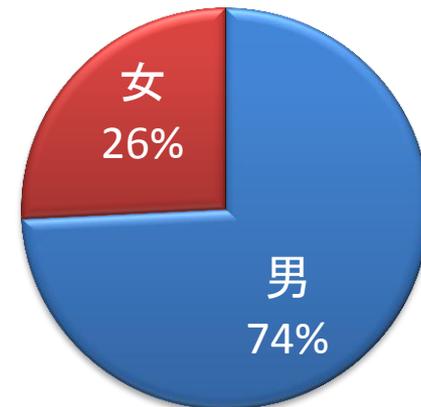
280431名	男性	227429名
	女性	53002名



2013年1月

○日本糖尿病学会 医師会員数

15909名	男性	11062名
	女性	3842名

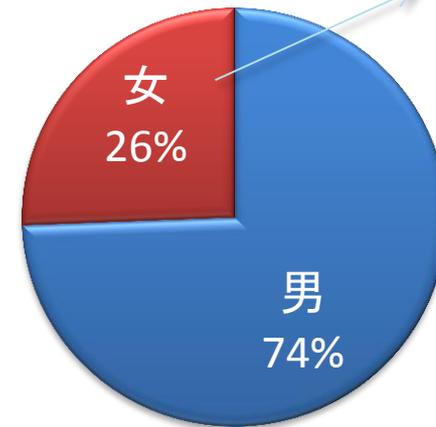


# 日本糖尿病学会 糖尿病専門医、学術評議員数

2013年1月

○糖尿病専門医数

4689名 男性 3489名  
女性 1200名



医師会員の  
比率と  
同様

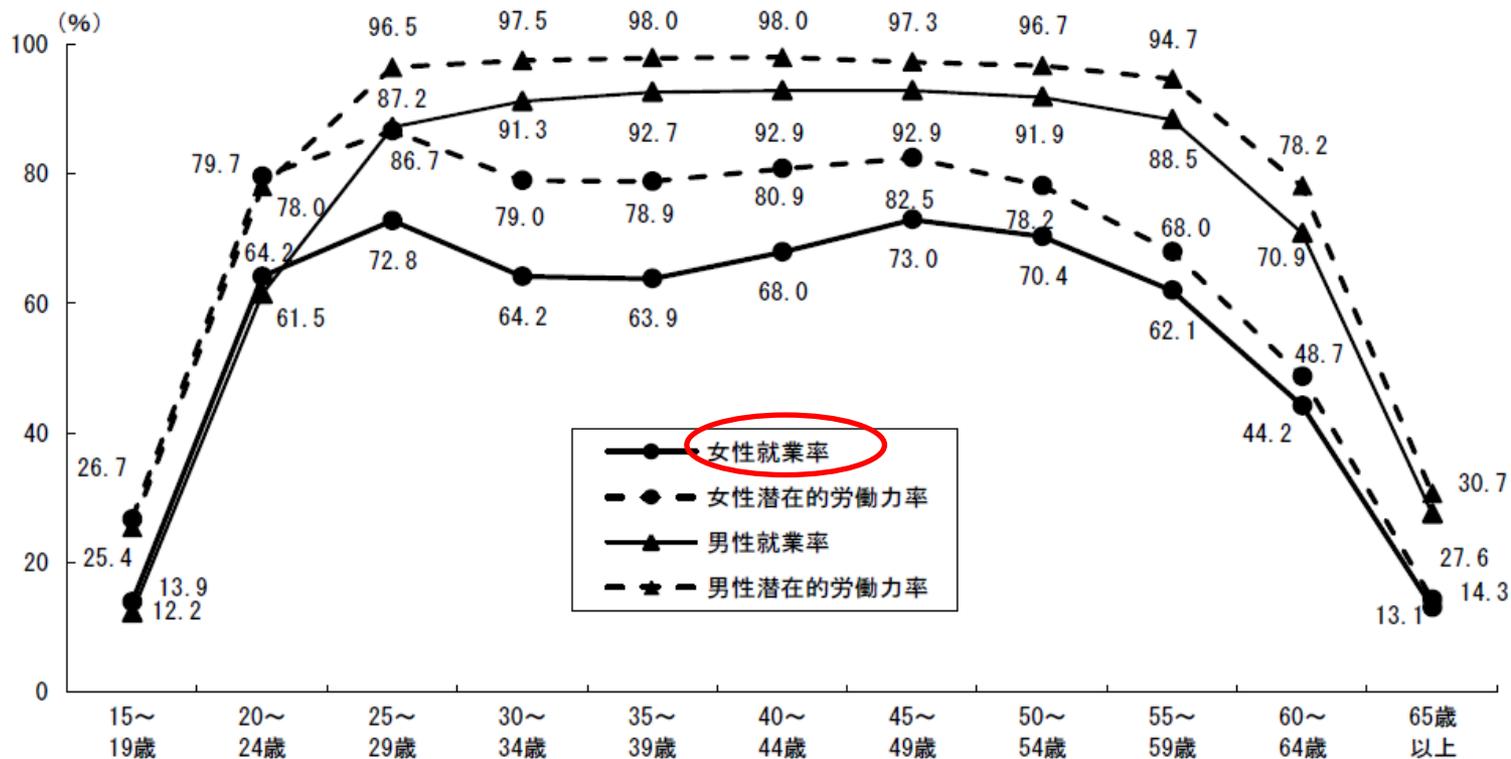
○学術評議員数

673名 男性 618名  
女性 55名



# 年齢階級別労働力率(平成23年)

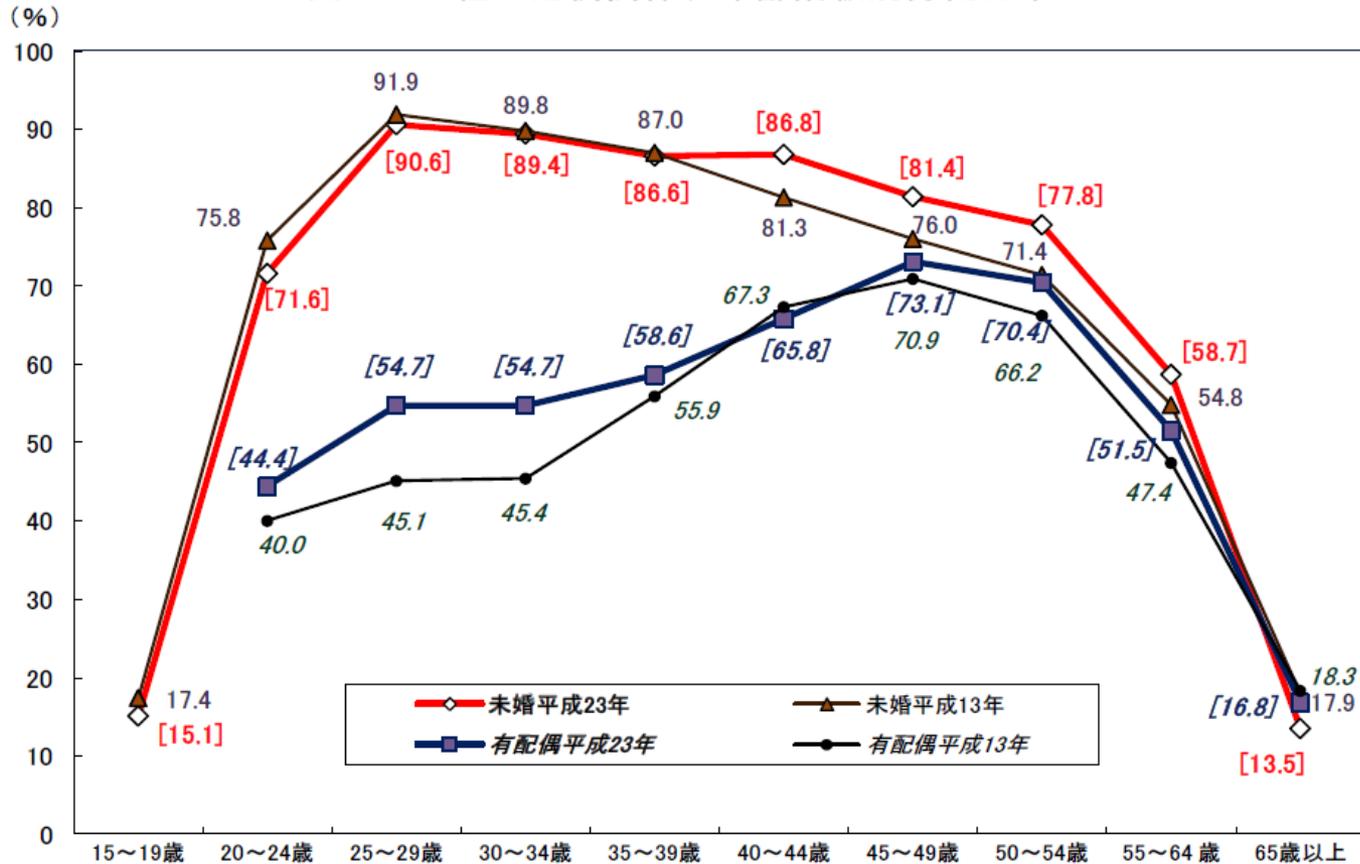
図9 年齢階級別就業率及び潜在的労働力率



資料出所：総務省統計局「労働力調査」(平成23年)、「労働力調査(詳細集計)」(平成23年)

# 女性は結婚すると休職、離職が多くなる

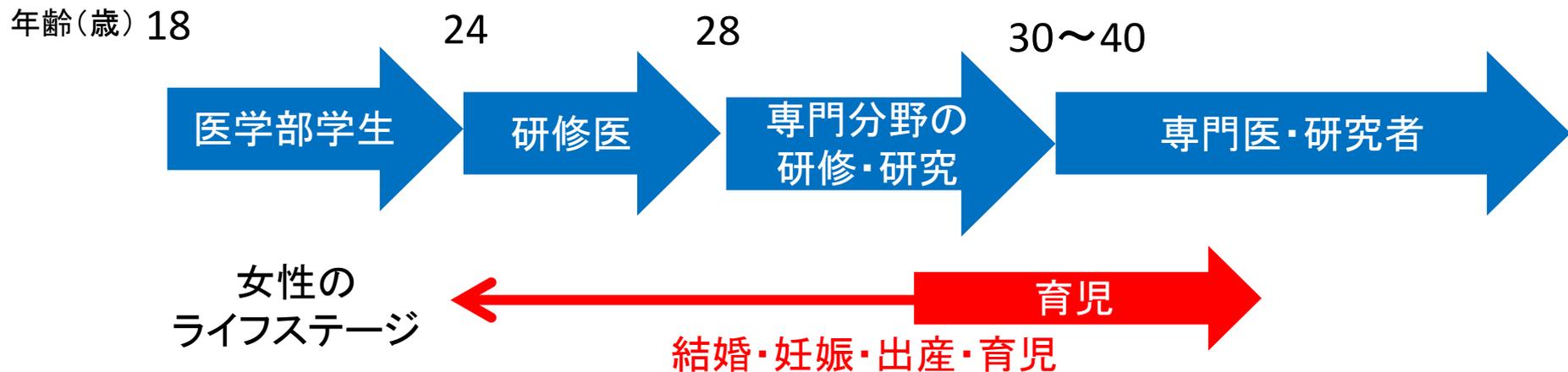
図2 女性の配偶関係、年齢階級別労働力率



資料出所：総務省統計局「労働力調査」（平成13、23年）

注）平成22年及び23年の比率は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果。

# 医師のキャリアと女性のライフステージ



# 子育て世代の女性糖尿病専門医

- ① 専門医更新の単位取得維持が難しい
- ② 学術集会への参加が難しい
- ③ 指定講演の受講が難しい
- ④ 勤務体制の問題

# ① 専門医更新の単位取得維持が難しい

- 現状は5年間で70単位以上取得
  - 論文発表、年次学術集会および教育的企画への参加から50単位以上
  - 指定講演の聴講で20単位以上
- 更新規定第6条： 研究のための海外留学や長期病気療養、産休・育休等特別な事情があり更新が不可能となった場合、その事情を記した書類を添付して、更新期間の延長を申請することができる。
- 要望： 更新期間の延長、単位取得方法の拡充、必要取得単位の軽減

## ②学術集会への参加が難しい

- 開催地の問題： 遠方での年次学術集会は参加できない、子供と同行は困難、子供の預け先がない
- 開催日の問題： 同じ月の同じ週の開催では、その他の行事と重複
- 託児室の問題： 託児室の定員、対象年齢、その他の託児サービス斡旋
- 要望： 大都市開催、託児サービスの拡充、休日日中の講演会・セミナーなどの開催

### ③指定講演の受講が難しい

- 現状は年次学術集会、各支部地方会、糖尿病学の進歩、糖尿病合併症学会において指定
  - 5年間で20単位以上取得が必要
  - 1単位/30分
  - 年間8単位まで取得可
  - 地方会では4単位以上/年の指定講演  
(それぞれの地方会では4単位/年まで取得可)
- 要望： web講演の受講、DVD視聴による受講、テキスト履修、レポート提出などによる単位取得

# 勤務体制や院内の制度の改革

- 妊娠・出産時期： 休職時のサポート体制が不十分（本人および施設に対して）。人材の確保体制がない。出産後の職場復帰に不安。
- 育児期： 非常勤が多く、キャリアアップが難しい。育児のサポートが少ない。周囲の意識の差（職場、家族）。研究や自己学習の時間確保が難しい。

一方で女性糖尿病医は・・・

- 外来勤務による臨床キャリア継続な分野である
- 女性特有の患者教育が可能
- 患者とのコミュニケーションスキル
- 育児期を基礎研究の時間に利用できる

# 求められ体制や制度

- 院内保育所の充実
- 育休制度
- 産後の復職プログラム
- 多様な勤務体系
- メンターやロールモデルによるサポート
- 女性糖尿病医のネットワークや勉強会・研修
- 診療支援システムの構築
- 社会全体への意識改革の発信

# 女性糖尿病内科医として 働き続けることの意義

- 増加する糖尿病患者に対して、社会的ニーズが高い分野である。
- 女性でも活躍できる場が多くある分野である
- 妊娠、出産、育児期にも休職をせず、キャリアを継続することは可能である。
- 女性医師の活躍→組織の多様化→医師全体の過重負担軽減→ワークライフバランスの充実→質の高い医療の提供（38歳 専門医）

 医学・医療の進歩、社会への貢献